

琉球大学学生（上級生）調査（2017・18年度）結果の報告

本学は一般社団法人 大学 IR コンソーシアムが企画する学生調査に参加し、会員校と共通の質問項目を用いた調査を実施しています。本報告はこの共通質問項目の一部について、参加会員校全体の結果と本学のそれとを比較して示すものです。具体的には、1年生を除く上級生を対象にした調査で、2018年に49大学49,000人余りの学生が回答した参加会員校全体の結果、2017年に本学上級生2,000人弱が回答した結果、および2018年に本学3年生700人弱が回答した結果を並べています。本学では2018年から共通上級生調査の対象者を3年生に限っていることにご留意ください。

本報告では掲載していない学部別集計結果等の詳細な情報は、教育改善に向けた学内検討資料として活用する所存です。ご協力いただいた学生みなさんに感謝申し上げます。

1. 授業で議論をする経験

教員の説明を一方向的に聴くという従来の授業方法に加え、近年注目されている方法に授業中に学生が議論する機会を設けるものがある。図1に示した通り、本学でも参加大学全体の傾向と同様に、7割の学生がこのような経験をしていた。

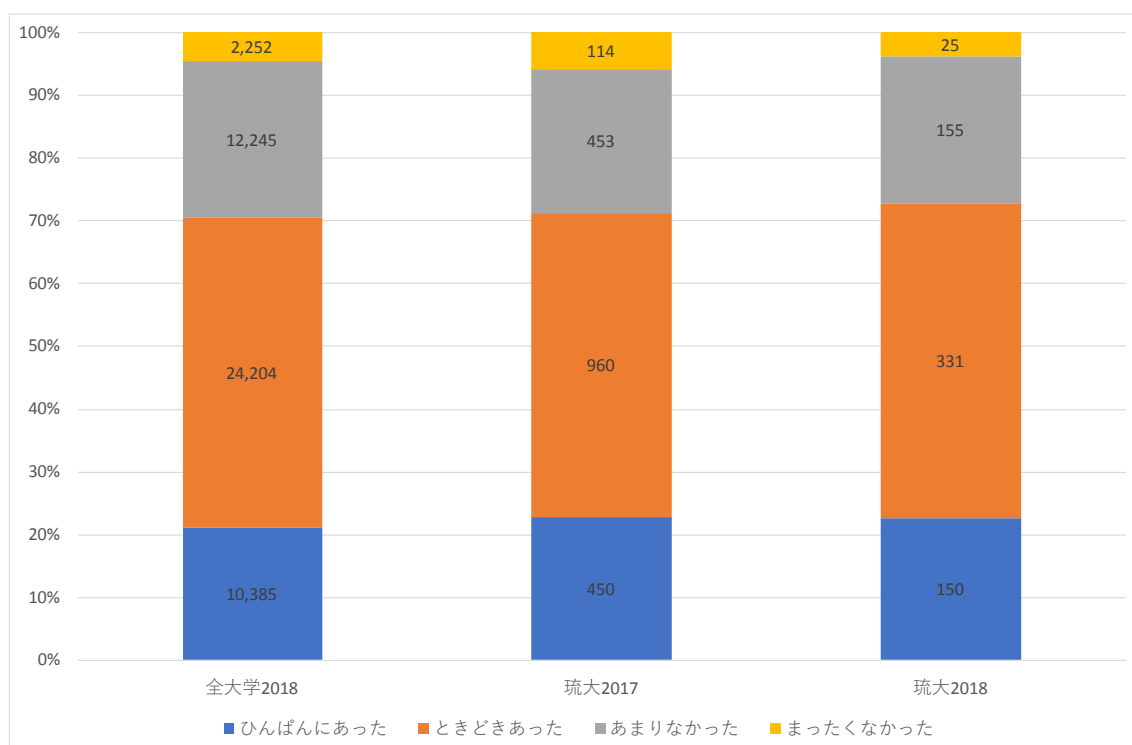


図1 授業中に学生同士が議論をする

2. 自主的な勉強会への参加

大学教職員にとって学生による自主的な学習行動が行われることへの期待は大きい。その一例として、図 2 には自主的な勉強会への参加経験を尋ねた結果を示した。参加校全体でも本学でも参加経験者は少数派であったが、両者を比較すると本学の学生はやや積極的に自主的学習に取り組んでいる様子がうかがえた。

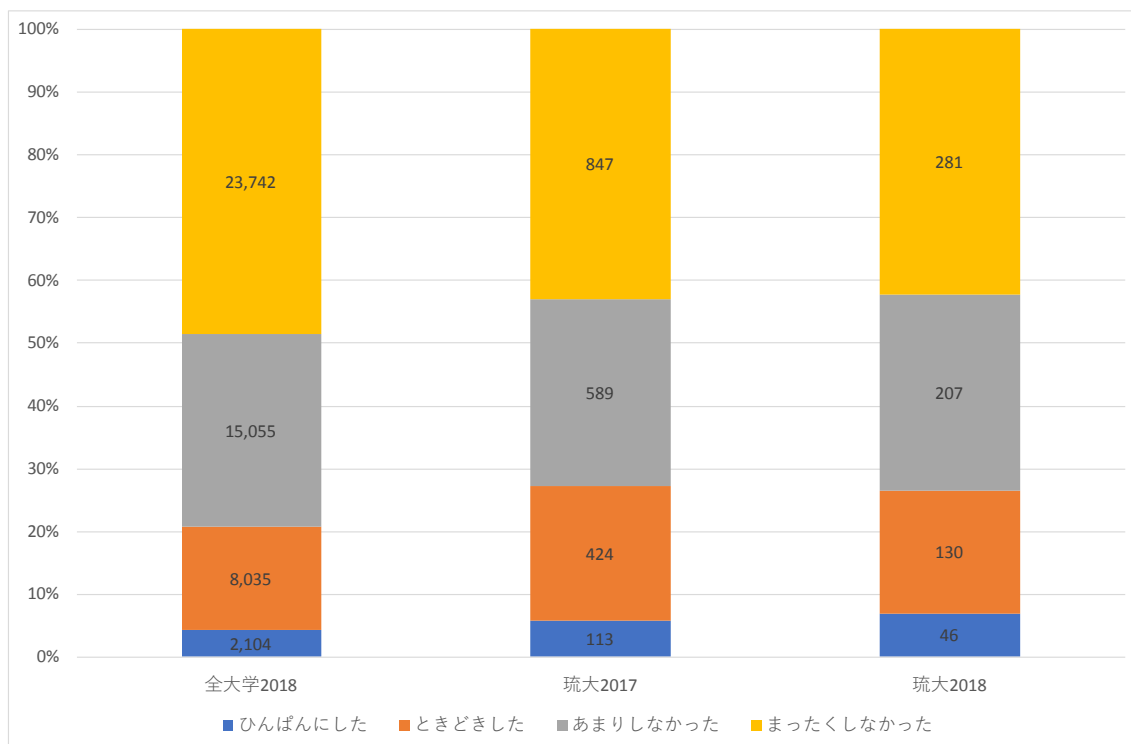


図 2 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した

3. 能力の変化

入学した時点と比べて能力はどう変化したのか。まず、図3には「分析力や問題解決能力」を自己評価してもらった結果を示した。参加校全体でも本学でも8割弱の学生がこの能力が増えたとしており、大学教育の効果を実感しやすいものであることがうかがえた。

次に、図4には「人間関係を構築する能力」の回答結果を示した。参加校全体と比べて本学学生はやや消極的な自己評価を行っていることがうかがえた。一方で、図5に示した「異文化の人々と協力する能力」については、参加校全体と比べて本学学生の自己評価はやや高い傾向にあった。この能力については「変化なし」とする回答が最も多く、効果が得られにくいものであったが、本学の特長となりうるものであった。

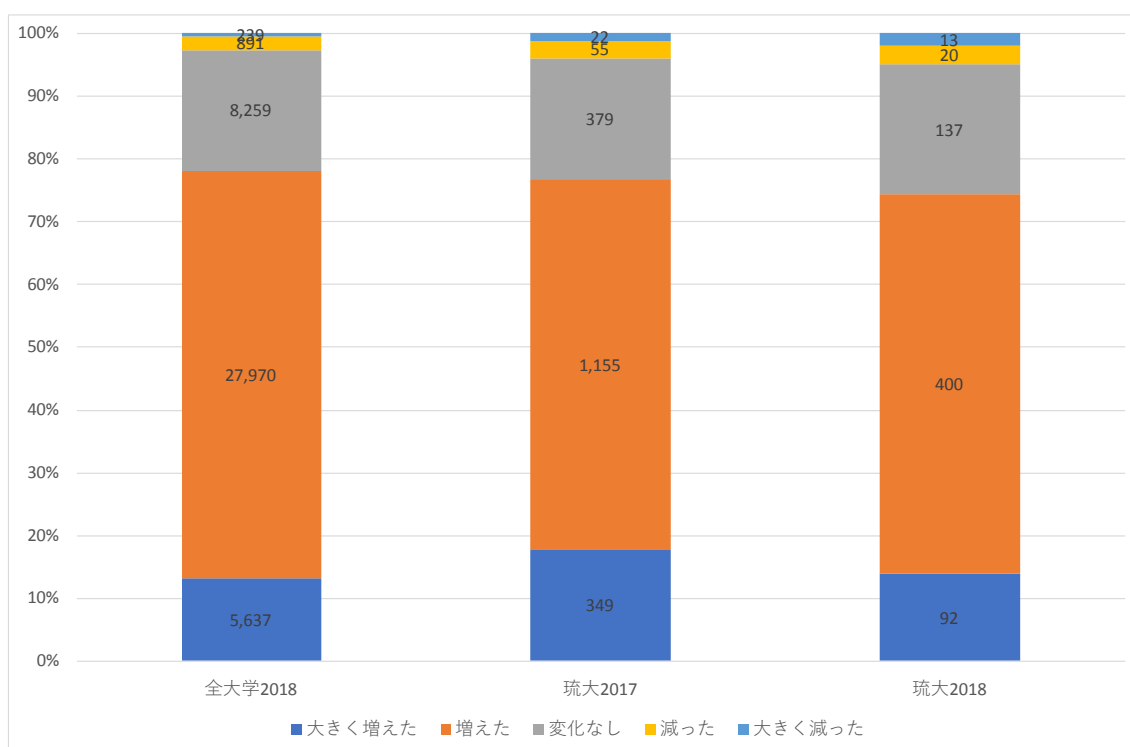


図3 分析力や問題解決能力

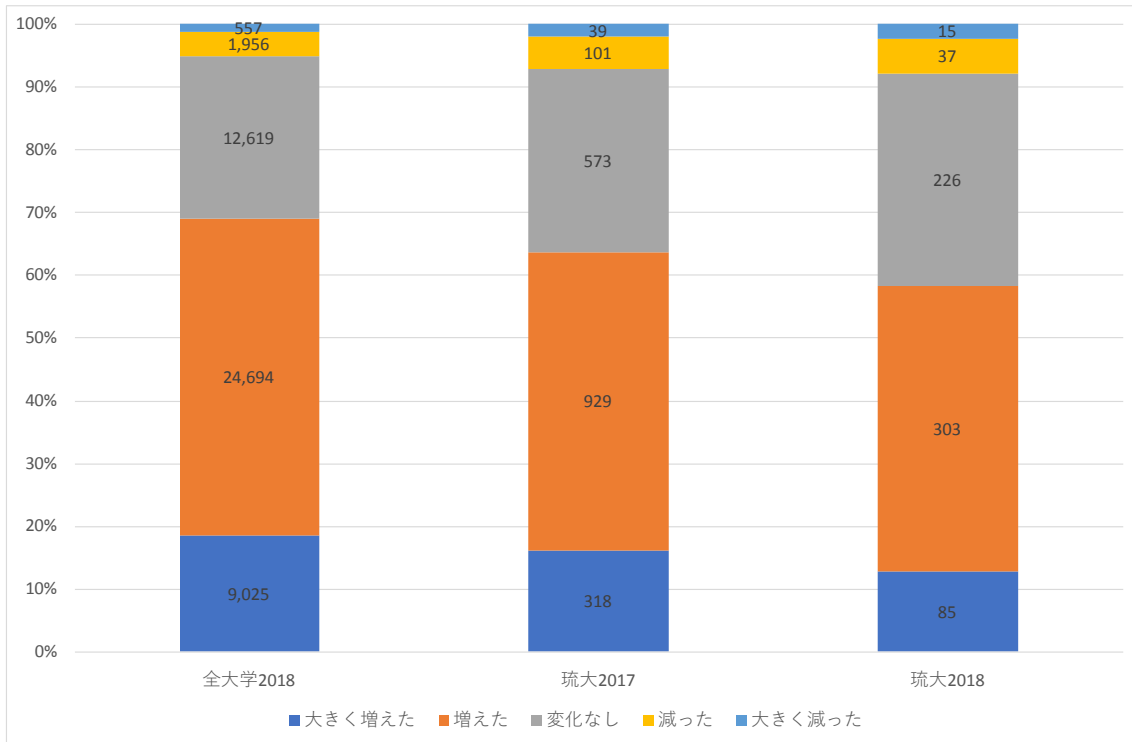


図 4 人間関係を構築する能力

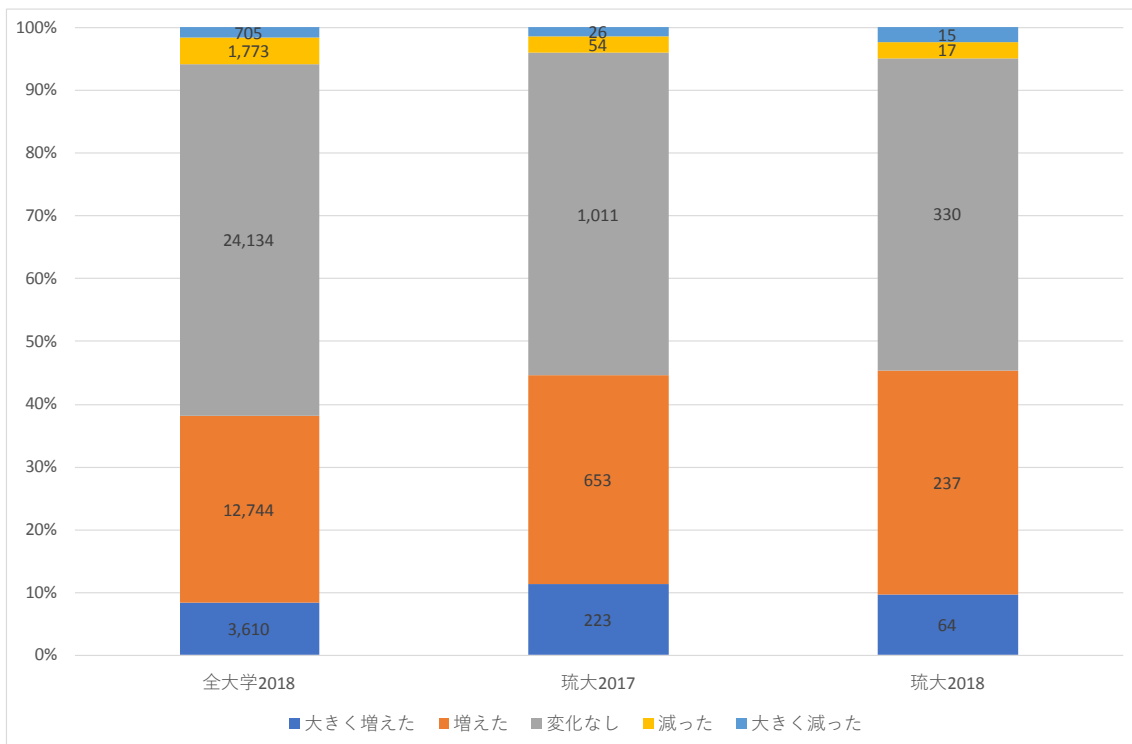


図 5 異文化の人々と協力する能力

4. 学生向けサービスの利用

図 6 には大学の学生向けサービスを上手に利用することができたかどうかを尋ねた結果を示した。参加大学全体と比べると、本学の学生がこれをうまくできていない傾向にあることがよく分かる。せっかくのサービスを十分に活用できていないことは勿体ないことで、その原因と対応策を本学教職員が検討する必要がある。

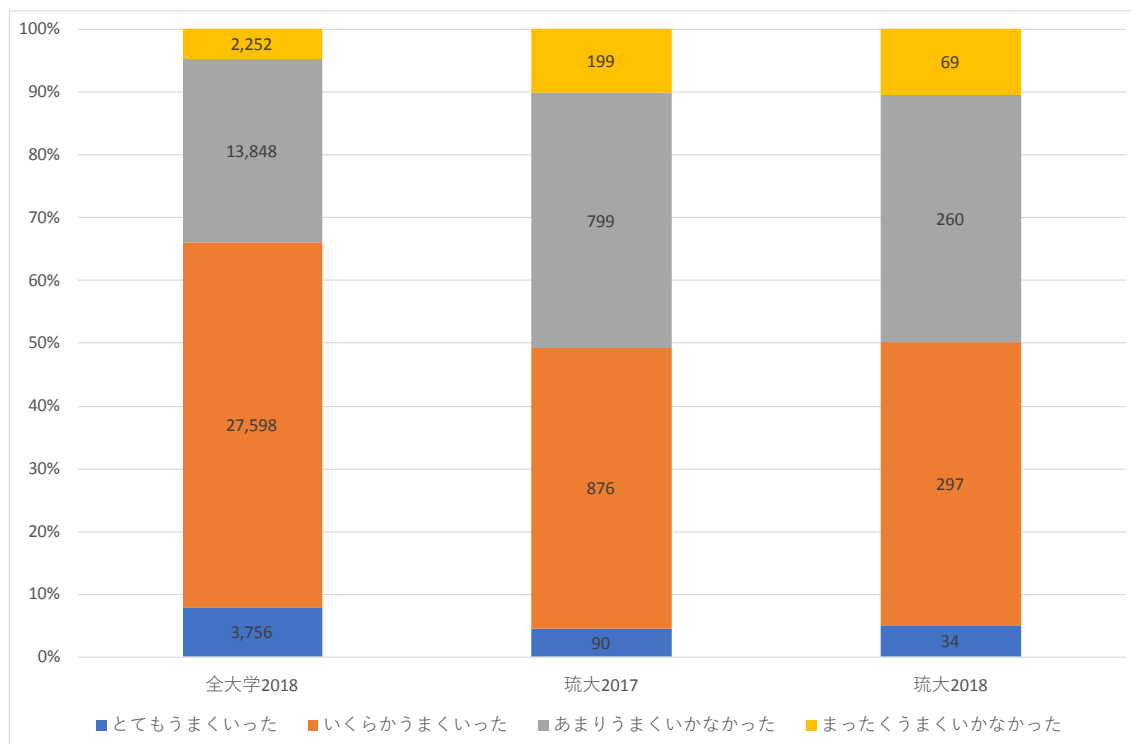


図 6 大学の学生向けサービスを上手に利用する